

#### ④ フリーカード法による授業検討会

※大阪大学 水越研究室が開発したものを基に構成

##### ア 特徴

参観者の多様な授業の見取りや質問事項を記入したカードを時系列・項目ごとに整理することにより、参観者の視点を明らかにしたり、焦点化した話し合いを行ったりして、授業者は授業改善の気づきを参観者とともに得ることができる検討会

##### イ 事前準備

○カードの記入（油性ペン使用）

授業を参観し、授業中に起きた事実や気になったことを、1枚1項目でカードに記入する。その際、記入時刻と記入者名をカードの端に記入する。

<記入例>

花子「わかった。1におもり4個、4におもり1個だどつりあう。」と発言。 13:50 鈴木

教師  
「それは、明日やるところ」と声がけをする。 13:50 佐藤

（授業中見取った事実をメモしておき、検討会導入場面でカードに記入）

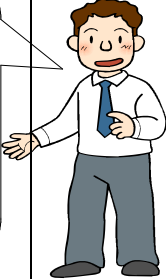
○台紙：次のように、模造紙の横軸に5分あるいは10分間隔で時間の区切りを設け、縦軸に、「授業の内容」「児童生徒の学習活動」「教師の活動」「教材・学習環境」などの項目を設ける。※「授業の内容」とは、授業のねらい・構成・展開等を示す。黒板にじかに枠を記入してもよい。

	5分	10分	15分	20分	25分	30分	35分	40分	45分
授業の内容									
児童生徒の学習活動									
教師の活動									
教材・学習環境									

##### ウ 検討会の過程 <約90分の時間設定>

	主な項目	形態	内容・留意点
導入	1 カード記入 <5分>	個別	1 参観者が一目で読めるよう、マジックで記入する。
	2 作業 <10分> ◇カード貼付 ◇カードの見取り ◇見出し記入	全体	2 記入済みカードを持ち寄り、台紙上の「時系列」「各項目」に貼付する。司会者（プロンプター）は、カードを見取り、まとめりごとに見出しを付ける。
	3 授業者からの説明 <5分>	全体	3 本時のねらいに即した工夫や提案、授業者の願いや思い等を述べる。
展	4 協議 <60分> 司会者から授業者へ「課題提示後の～という児童のつぶやきは予想どおりでしたか。」	全体	4 協議をする ① <b>時系列</b> で、司会者は、カードに書かれている内容について参観者に確かめたり、授業者に質問したりしながら進めていく。



開	<p>(参観者の「児童は意欲的でした。」を受けて)          授業者「本時のねらいは、実験用てこを実用てこに置き換えて考えること。でも、実際はできているんですね。」</p>		<p>② 授業者は、児童生徒とのかかわりから起きていた事実に基づいて、どう考えてどう動いたかを、<b>自分の言葉</b>で語り授業を明らかにしていく。  <b>(意味付け、授業の再構築)</b></p> <p>※③として、フリートーキングの場面を設定することもよい。</p>
まとめ	<p>5 指導助言 (必要に応じて)          6 授業者によるまとめ          &lt; 10分 &gt;</p>	<p>全体          全体</p>	<p>5 (授業者の思いを踏まえた助言)          6 参観者の多様な視点による質問や授業における焦点化した部分の討議からの気づきを基に語る。          ○振り返りを行う前後での授業の印象の違い          ○次時の授業改善や今後の授業について</p>

エ その他

○プロセスシートを活用した授業検討会と同様に、参観者は発言や働きかけに、留意する必要がある。(授業の善しあし、一般論、仮定は述べない。)



○司会者は、指導案作成段階から授業者を支援することが望ましい。

< Q & A >

**【Q】**：「ワークショップ形式」の授業検討会と「フリーカード法」による授業検討会は、共にカードを使用するが、大きな違いはどのような点か？

**{A}**：まず、ねらいの違い。フリーカード法は授業者の**気づき**を促すことが大きなねらいであり、ワークショップ形式は、授業者と参観者が互いに**授業改善の具体的方策**を提案していくことがねらいである。

次に、形態の違い。フリーカード法は、授業者を中心に据えての全体会の形態。ワークショップ形式は、グループ活動と全体会を併用した形態。

最後に、カードの扱い方の違い。フリーカード法は、あらかじめ決められた項目及び時系列で処理していくが、ワークショップは、KJ法を活用しているため、項目(タイトル・表札)はカード集約後に参観者によって示され、時系列に集約する必要もない。